

令和のお木曳



内宮の棟持柱を曳く大湊(平成19年5月12日)



御用材が集まる貯木場(昭和初期)

宮川、五十鈴川、勢田川と、3つの河口の三角州に形成された大湊には、かつて御遷宮の御用材を集積する貯木場がありました。木曽の山で伐り出された御用材は川を下って桑名から海路で運ばれました。貯木場で内宮用、外宮用に仕分けされ、それぞれ五十鈴川、宮川へと運ばれました。貯木場があった関係もあり、大湊は第一次のお木曳では陸曳も川曳も、第二次には内宮の「棟持柱」を曳く団として知られています。

また造船のまちとして栄え、戦国時代、織田信長が九鬼嘉隆に命じた鉄板張の大船は大湊で造られ、豊臣秀吉の朝鮮出兵に際して建造された「日本丸」は有名です。昔は船大工や職人も多く、御用材を奉曳車に固定する時に歌われる「荷張歌」は、貯木場近くの限られた住民に受け継がれています。

「計算できるものと違つて、勘と経験が必要です。車輪は直径1.7メートルと奉曳車も大きいですし、綱も太い。車に直結する元綱と250メートルある先綱の結び方も独特です」と大湊奉曳団団長の強力修さん。

伊勢のまちにとつて大きな節目となる神宮式年遷宮。御遷宮に関連する伝統的な民俗行事「お木曳行事」に向けて、伊勢御遷宮委員会は「次期神宮式年遷宮用材奉曳本部・奉曳団連合会結成準備委員会」を設置しました。神領民の皆さん機運を高め、各団の結成や準備などを促して補助するため、伊勢市や伊勢商工会議所などの関係者ら10人で構成。会長を福井敏人副市長、委員長を商工会議所の濱田典保副会頭が務めます。準備委員会を設けるのは今回が初めてです。



大湊奉曳団令和5年初穂曳、团长 強力修さん(左)
大湊町振興会・会長 本村鏡一さん(右)

伊勢御遷宮委員会
伊勢市岩渕1丁目7-17
(伊勢商工会議所5階)
TEL 0596-25-5215
✉ jumukyoku@ise-gosengu.com



お木曳行事の広報紙

令和6年3月20日発行

第2号

受け継ぐ伊勢の神領民 御用材を預かる誇りと歴史を



役木曳参加の奉曳団

(第62回御遷宮時)

誌上はっぴ図鑑

団ごとに意匠を凝らしたそれぞれのはっぴ。代々の柄を受け継いだり、デザインを新調したり、御遷宮行事への町衆の心意気が感じられます。前回御遷宮時ははっぴを、団ごとに「誌上図鑑」として紹介します。今回も役木曳に参加した団のはっぴを、平成18年の役木曳の様子とともに振り返ります(はっぴが同一の団について紹介は一枚。奉曳順は下部を参照)。

内宮の役木曳は川曳で。前日の大雨で五十鈴川の水量が多く難航しましたが、無事に奉曳が行われました。神苑からは人々が並んで運び、10本の役木を内宮五丈殿とそれを別宮の御殿地に安置。神域外の月読宮や倭姫宮までは陸路をそりで曳きました。

外宮の役木曳は宮川堤から始まります。川から曳き上げた御用材を、どんどん場で上下に振って水を切り、奉曳車に積み込み、木遣り唄と「ん鳴り、「エンヤ」の掛け声が町中に響き、綱を曳いて練りながら、ゆっくりと外宮前へ到着。北御門への曳き込みはエンヤ曳で、7本の役木が外宮五丈殿前と各別宮の御敷地へ運び込まれ、無事、役木曳は終了しました。

内宮▶進修【宇治・二軒茶屋・修道】[桜木町、伊勢古市、桜が丘、五十鈴ヶ丘、中之町]、四郷*1 [楠部町奉曳団、鹿海町奉曳団、中村町奉曳団、一宇田町奉曳団、朝熊町奉曳団]、二見町*2 [二見町松下奉曳団、二見町江清渚連、二見浦茶屋清渚連、二見町三津奉曳団]、二見町山田原奉曳団、二見町溝口・光の街奉曳団]、大湊外宮▶小川町、河崎連合 [旭通、南側]、中島町、本町、中島連合 [出雲町、京町]、八日市場町、河崎六ヶ町

一丸となつて役木曳

平成18年4月12日(内宮)

13日(外宮)

多賀宮への石段を上るのは本町奉曳団

伊勢のまちにとつて大きな節目となる神宮式年遷宮。御遷宮に関連する伝統的な民俗行事「お木曳行事」に向けて、伊勢御遷宮委員会は「次期神宮式年遷宮用材奉曳本部・奉曳団連合会結成準備委員会」を設置しました。神領民の皆さん機運を高め、各団の結成や準備などを促して補助するため、伊勢市や伊勢商工会議所などの関係者ら10人で構成。会長を福井敏人副市長、委員長を商工会議所の濱田典保副会頭が務めます。準備委員会を設けるのは今回が初めてです。

今後はお木曳行事を遂行する「奉曳本部」と「奉曳団連合会」を来年2月11日に結成する予定で、官民一体となって準備を進めています。

内宮の初穂曳では大湊奉曳団が川曳を担当。強力さんのリーダーシップにより、住民に加えて地域の企業にも声を掛け、約800人が五十鈴川を廻り、無事、内宮へお初穂を奉納しました。

令和5年の初穂曳では大湊奉曳団が川曳を担当。強力さんのリーダーシップにより、住民に加えて地域の企業にも声を掛け、約800人が五十鈴川を廻り、無事、内宮へお初穂を奉納しました。

二人が揃つて自慢するのは、まちの強固な団結力。「地元を離れていても、神宮さんの祭りとなればみんな里帰りして、すぐに結束する。振興会がそのまま奉曳団の組織となつて取り組んでいることもあります。大人の役割」と初穂曳以降、木遣り保存会を結成。大湊のお木曳を伝えていくこと、次期御遷宮に備えています。

伊勢のまちにとつて大きな節目となる神宮式年遷宮。御遷宮に関連する伝統的な民俗行事「お木曳行事」に向けて、伊勢御遷宮委員会は「次期神宮式年遷宮用材奉曳本部・奉曳団連合会結成準備委員会」を設置しました。神領民の皆さん機運を高め、各団の結成や準備などを促して補助するため、伊勢市や伊勢商工会議所などの関係者ら10人で構成。会長を福井敏人副市長、委員長を商工会議所の濱田典保副会頭が務めます。準備委員会を設けるのは今回が初めてです。

今後はお木曳行事を遂行する「奉曳本部」と「奉曳団連合会」を来年2月11日に結成する予定で、官民一体となって準備を進めています。

内宮の初穂曳では大湊奉曳団が川曳を担当。強力さんのリーダーシップにより、住民に加えて地域の企業にも声を掛け、約800人が五十鈴川を廻り、無事、内宮へお初穂を奉納しました。

二人が揃つて自慢るのは、まちの強固な団結力。「地元を離れていても、神宮さんの祭りとなればみんな里帰りして、すぐに結束する。振興会がそのまま奉曳団の組織となつて取り組んでいることもあります。大人の役割」と初穂曳以降、木遣り保存会を結成。大湊のお木曳を伝えていくこと、次期御遷宮に備えています。

伊勢のまちにとつて大きな節目となる神宮式年遷宮。御遷宮に関連する伝統的な民俗行事「お木曳行事」に向けて、伊勢御遷宮委員会は「次期神宮式年遷宮用材奉曳本部・奉曳団連合会結成準備委員会」を設置しました。神領民の皆さん機運を高め、各団の結成や準備などを促して補助するため、伊勢市や伊勢商工会議所などの関係者ら10人で構成。会長を福井敏人副